

県では、川内原子力発電所の運転による影響を調べるため、発電所の試運転開始前から、周辺地域の空間放射線量や、周辺で採取した野菜・水に含まれる放射性物質の測定、温排水の影響を調査しています。

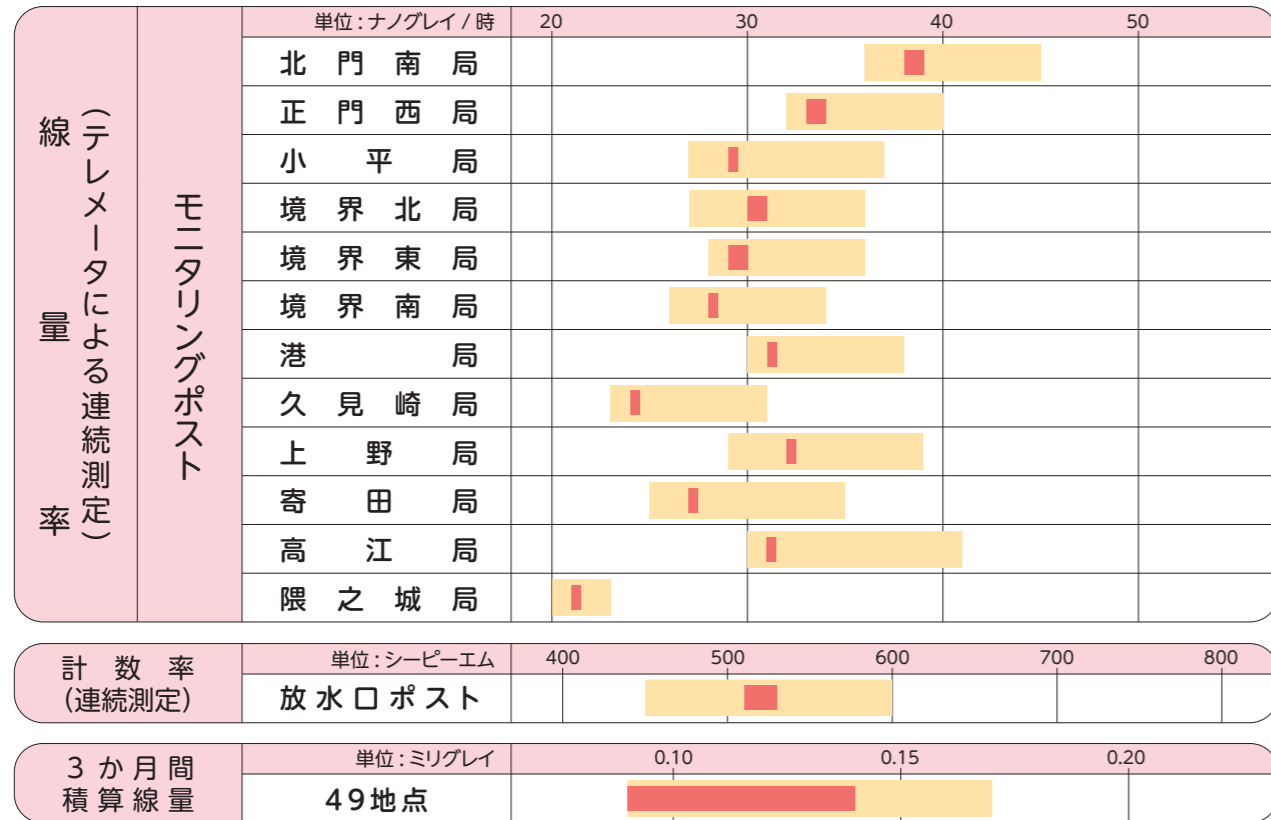
## 空間放射線量の測定 (令和5年1月～3月)

モニタリングポスト(73局)の空間放射線量と、発電所の放水口ポスト(1局)における海水中の放射線量を、テレメータシステムを用いて常時監視しています。また、発電所周辺の49地点において、3か月間の積算線量の測定を行っています。

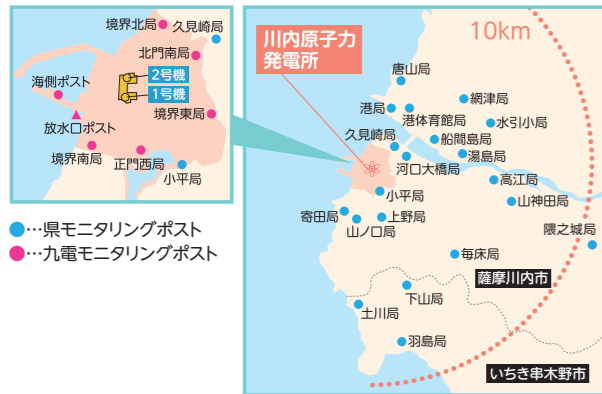
これまでの測定値範囲



今回の調査結果は、これまでの調査結果と比較し、異常は認められませんでした。



## 川内原子力発電所周辺の測定局



## 川内原子力 発電所



空間放射線量の測定結果については、リアルタイムで県のホームページで公表しています。

鹿児島県 環境放射線テレメータ

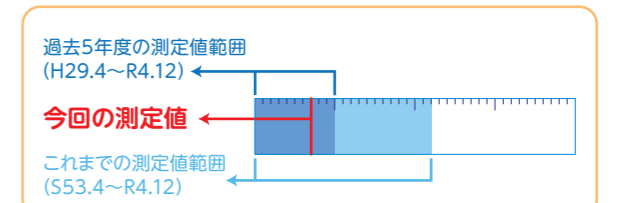
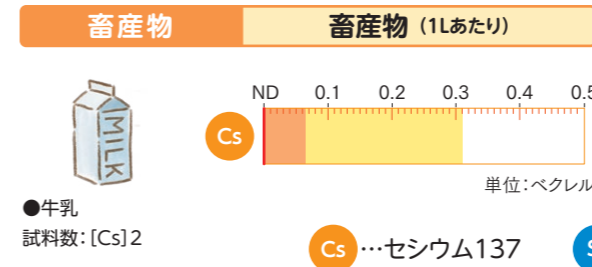
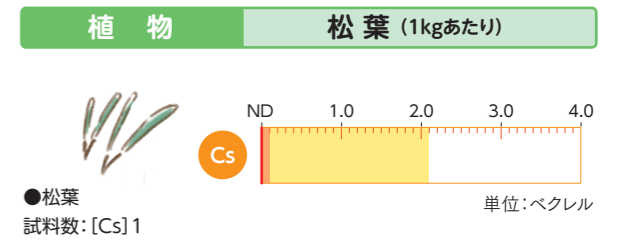
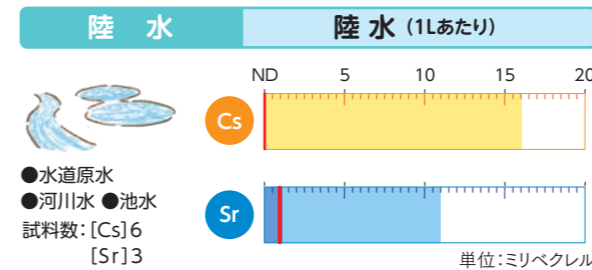
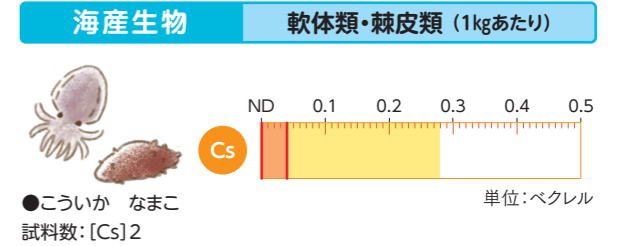
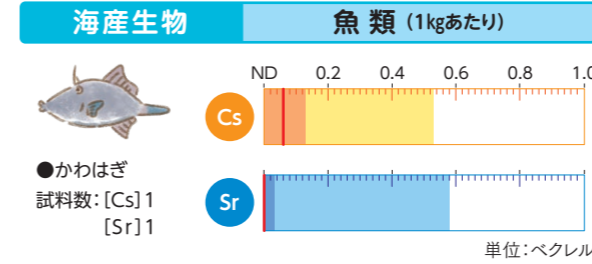


## 環境試料の放射能分析 (令和5年1月～3月)

人工の放射性物質であり、環境における蓄積や被ばくの観点から重要なセシウム137、コバルト60、ストロンチウム90、ヨウ素131等について分析しています。今回は海洋試料9試料、陸上試料33試料、合計42試料を対象としています。



今回の調査結果は、これまでと同様、過去に実施された大気圏内核実験等による影響と考えられる、ごく微量のセシウム137、ストロンチウム90が検出されていますが、異常は認められませんでした。



Cs…セシウム137 Sr…ストロンチウム90 ND…検出されなかったことを示します。

## 温排水影響の調査 (令和4年度 冬季)

温排水とは、発電所内で蒸気の冷却に使用した後に排出される海水のことです。この温排水が周辺海域に与える影響を把握するために、温排水影響調査を定期的実施しています。

## 水温・塩分・流況や周辺海域の主要魚類の漁獲量については、過去の変動の範囲内でした。

- 水温・塩分調査** 水温計を船でひきながら、水深別に水平分布を調査しました。また、海面から海底までの鉛直分布も調査しました(令和5年3月5日)。
- 流況調査** 海中に流速計を設置し、潮流の向きや速さを調査しました(令和5年2月19日～3月6日)。
- 主要魚類及び漁業実態調査** 周辺海域におけるイワシ類(シラス)やマダイ・チダイの漁獲量を調査しました(令和4年1月～12月)。

※本調査は電源立地地域対策交付金にて実施しています。



今回の調査結果については、県のホームページに掲載しています。

鹿児島県 環境放射線・温排水影響調査結果

